

2022 - 2025

2022: 御所浦歯科診療所と御所浦診療所を統合した診療所が完成

2023: 天草未来大橋・本渡令和橋が開通⑫。「天草アーカイブズ」がリニューアルオープン。天草市陸上競技場「あましんスタジアム」がオープン。

2024: 「御所浦恐竜の島博物館」がリニューアルオープン⑬

2025: 令和7年8月豪雨



市章には どんな意味が 込められている？



天草市の頭文字である「ア」を島と波に図案化し、広がる波紋は活気あふれる市民と市の発展を、緑と青は自然豊かな日本の宝島“天草市”を象徴しています。



2019 - 2021

2019: 市役所新庁舎が落成⑧。道の駅「天草市イルカセンター」がオープン⑨

2020: 複合施設「こころす」がオープン⑩

2021: 道の駅「宮地岳かかしの里」がオープン。下田南3号トンネル開通⑪



2016 - 2018

2016: 1月に記録的降雪を観測⑥。合併10周年記念式典を開催。崎津集落ガイドセンター・崎津資料館みなと屋がオープン。演歌歌手・原田悠里さんに天草宝島親善大使を委嘱

2017: コミュニティ FM局「あまくさシティエフエム みつばちラジオ」開局。ロックバンド・WANIMAに天草宝島親善大使を委嘱

2018: 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(構成資産の1つとして崎津集落)が世界文化遺産に登録⑦



2006 - 2010

2006: 2市8町が合併し、「天草市」が誕生①。宮田バイパス開通

2007: 栖本地区のシンボル「かっぱ像」が完成②

2008: 天草支所の新庁舎落成

2009: 市民憲章・市のシンボルなどを制定。「棚底城跡」が市初の国指定史跡となる

2010: 「天草キリシタン館」がリニューアルオープン。御所浦支所の新庁舎落成

2011 - 2015

2011: 牛深港が「みなとオアシス」に認定・登録。都市対抗熊日駅伝で市チームが初優勝(その後4連覇)③

2012: 天草に電燈が灯って100周年(大正元年~)の記念式典を開催。都市対抗熊日女子駅伝で市チームが初優勝

2013: 第1回世界サンタクロース会議in天草を開催④。脚本家・小山薫堂さんに天草宝島親善大使を委嘱

2014: 第1回宮地岳かかしまつり開催⑤。天草市民センター体育館落成

2015: うしぶか海彩館が道の駅に登録。演歌歌手・天草二郎さんに天草宝島親善大使を委嘱



天草市合併20周年 未来へつなぐ

合併から20年。市ではさまざまな変化がありました。これまでの出来事を振り返るとともに、これからも市民の皆さんにとって誇れる天草市であり続けるためにどんなことができるのか、この機会に考えてみませんか。

天草市と同じ ハタチ



当時の松岡さん



松岡春樹さん
(海上自衛隊)

合併10周年のときに行った「市長と児童との合併10周年記念トーク」。当時小学校4年生の児童10人が、故・中村市長（当時）を囲んで天草の未来について語り合いました。その中で、「将来の夢はパイロット」と話していた松岡春樹さんに話をお聞きしました。

将来は天草を 空から守りたい

10周年記念トークのことは何となく覚えています。あれから一度は夢を諦めました。が、知人から自衛隊に入らなにかと誘われ、運命に導かれパイロットになることができました。現在は、山口県下関市にある201教育航空隊に所属し、学生として航空機の構造や上空でのルールを勉強しています。

高校卒業後に天草を離れ、食べ物のおいしさや住みやすさなど、天草の良さを改めて実感しました。自衛隊は定年が早いので、定年後はドクターヘリや消防のヘリなど、パイロットとして天草に貢献できればと考えています。これからもふるさと天草のために、自分にできることをやっていきたいです。

市民憲章をご存じですか？

わたしたちは、将来にわたって、夢と希望に満ちあふれた天草市となることを願い、ここに天草市市民憲章を定めます。

- 一、感謝の心を持ち、豊かな「しぜん」を守ります
- 一、ふるさとを愛し、誇れる「ひと」を育てます
- 一、恵まれた風土を活かし、「ものづくり」に励みます
- 一、伝統と文化を学び、安らぎのある「まち」を創ります
- 一、世代の調和を大切に、健やかな「和」を広げます

合併20周年記念式典を開催

20年の歩みを振り返るとともに、天草市の未来について考える機会とするため、記念式典を開催します。

日時 **5/30** ± 10:00 ~ 場所 **天草市民センターホール**

☎ 政策企画課 ☎ 27-5052

平成18年度の市政だより天草で、市民の皆さんの市への期待や思いなどを10カ月にわたり紹介。その中から3人にインタビューし、現在の取り組みやこれからの天草市へ期待することなどをお聞きしました。

2026.1



こうせい 京塚 幸政 さん
(楠浦町)

2007.1



次世代が帰ってきやすい天草に

高校卒業後、就職で天草を離れたが、25歳の時に帰ってきました。現在は天草町の造船所に勤め、ノリの養殖船を造っています。20年前と比べると、通っていた学校の閉校等で少子化を感じますが、トンネルができて交通の便が良くなるなど、住みやすくなったとも感じています。子どもが4月から小学生になります。が、入学祝金をもらえるのは助かります。天草は自然が豊かで、20年前と変わらない景色が残っています。これからの住みやすい環境を守り、働く場所があるなど、次の世代が帰ってきやすい天草であってほしいと思います。

のりこ 松川 法人 さん
(宮地岳町)



2026.1

ふるさと天草をいつまでも

この20年間で中心部には大きな商業施設ができましたが、周辺部では子どもや若い人たちが出て行ってしまいい、人口減少・高齢化が深刻です。私が生まれ育った宮地岳も例外ではありません。若者が地域に残ることができ、市外から呼び込むことができ、そんな環境が整備されたらと思っています。また、「水」は生きるために欠かせないもの。上水道が天草全体に整備されることで、天草のどこにいても安心して生活できます。私は現在、宮地岳営農組合に勤めており、水は農業においても欠かせないもの。農業の課題を解決するために、スマート農業の推進などを行い、ふるさと天草がずっと続いていくことを願っています。



2007.1

子どもたちの元気な声が聞ける町に

2006.5



金子みちよさん
(五和町御領)



2026.1

人と関わるのが好きで、クラスに参加したり、友人たちと一緒に弁当や総菜などを作ったりしています。他にも、家の多肉植物を育てるハウスの中には憩いスペースもあり、近所の皆さんと過ごすひとときが楽しいです。合併当時は、地区に20人ほどの子どもがいましたが、今はゼロ。ほとんどが高齢者で、一人暮らしの人もいますが、お互いを思いやれる関係性が都会にはない天草の良いところだと思っています。でも、子どもの声が聞けないのはやっぱり寂しいですね。子育て支援に力を入れて、生まれてくる子どもの数を増やし、大好きな天草を守ってほしいです。

あなたの思い描いた天草市になっ
ていますか？